

## 水稻硫黄欠乏の現地検討会を開催（世羅町）

【平成30年7月5日掲載】

6月22日、世羅町で水稻硫黄欠乏に係る現地検討会を行いました。

硫黄欠乏は水稻の生理障害の一つで、土壌中の有効態硫黄が極端に少ない場合や、土壌の異常還元によって硫黄が稲に吸収できない形態に変化し、一時的な硫黄の飢餓状態が起こることで、水稻の初期生育が極端に抑制されると考えられています。

当所では平成28年度から世羅町内において硫黄欠乏への対策に向けた実証を行ってきましたが、依然として水稻における硫黄欠乏の認知度は低く、生産者・指導者ともに本障害に気づかないまま大きな減収を招いているケースもあると思われます。

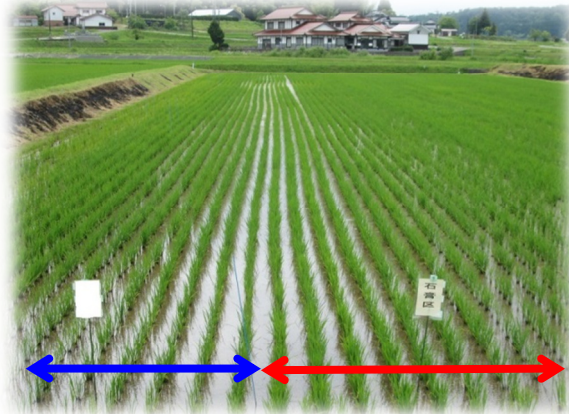
本検討会では指導者の硫黄欠乏に対する認知度の向上を目的として、試験研究機関、JA、全農、各行政機関及び育苗培土メーカー等の関係者を招き、硫黄欠乏対策実施による収量改善実証圃の現地見学を行いました。当該圃場では硫黄欠乏対策として「育苗培土に石膏を事前混和した苗」と「対策未実施の苗」の2種類を同一圃場内に移植しており、当日は対策の有無による初期生育改善効果が確認できました。

実証圃の育苗培土の試作を依頼したメーカーからも、「これほどの生育差が出るとは思っていなかった。今後も硫黄欠乏対策に協力していきたい。」と前向きな意見を頂きました。

現在、硫黄欠乏圃場は世羅町で多く確認されていますが、本年度、県では硫黄欠乏発生状況に係る県域モニタリング調査を行っており、この結果も踏まえながら今後の対策を検討することとしています。



検討会の様子



対策有無による初期生育差異

青線部分：対策未実施、赤線部分：対策実施

情報提供元

東部農業技術指導所